

職業性疾患・疫学リサーチセンター

関西支部ニュース

発行責任者 水嶋 潔

東大阪市高井田元町1-3-1

みずしま内科クリニック内

TEL06(6781)3330

<http://oe-rc-kansai.sakura.ne.jp>

海老原先生の足跡訪ね西渡診療所へ



【 久根・峰の沢 鉱山のじん肺 】

急逝した海老原勇前理事長が所長を務めておられた「西渡診療所」を昨年8月6日、関西支部の仲間6人で訪ねました。西渡診療所は、所在地は浜松市ながらJR浜松駅より50km以上、車で1時間半ほどの山あいにあります。この地域には「久根鉱山」（昭和45年閉山）があり、元労働者のじん肺患者の診療のため、海老原先生は毎週、東京からこの地に車で通っておられました。

海老原先生が不慮の事故で亡くなって3か月後の当ツアーの目的は、長年、山村のじん肺患者とともに歩んできた海老原先生の足跡をたどるとともに、診療所内にあると思われる特定の患者のカルテやレントゲンを探し出すことなどでした。浜松駅までは新幹線で、その後は、水嶋支部長の運転するレンタカーで現地に向かいました。当日は晴天、最高気温34度の猛暑でしたが、急流で有名な天竜川沿いに走る山道は爽快でした。

診療所に到着すると、海老原先生の愛車が

そのまま駐車してあり、かつては旅館だったという木造の古い建物内には、直前まで海老原先生が診療しておられたかのように、診療器具や書類等が無造作に置かれていました。冷蔵庫の中もそのままでした。それだけ、今回の事故が突然の出来事であったことを想起させます。病理標本やレントゲンフィルム、カルテなど貴重な医療資料も手付かずのまま残されていました。私たちは支部長の指示のもと、たくさんある部屋や物置を一つ一つ覗いて、ネズミの死骸に悲鳴を上げる場面もありつつ、大汗をかきながら搜索活動を行いました。



【 じん肺の写真を見る西山さん 】

一定の活動の後、昼食は支部長が事前に予約した近くの「植山食堂」。活うなぎを捌いてその場で焼く「うなぎ定食」が評判らしく、店の前の水槽には大量のうなぎが泳いでいました。私たちは、運転者である水嶋支部長のご厚意に甘えてビールで乾杯。猛暑作業後のビールとふわふわのうなぎが最高に美味であつ



【 水嶋支部長といつもの仲間たち 】

たことは言うまでもありません。

うなぎを堪能した後は、久根鉦山跡と佐久間ダムを見学。60年以上前に完成した佐久間ダムの工事では96人が労災で殉職したとのことで、一行は、雄大なダムの景色に感動しつつ、労働者の命を守る活動の重要性を再認識しました。再び水嶋支部長の運転で帰路につき、帰りの新幹線ではみんなで乾杯。海老原先生の遺志を継いで奮闘することを誓い合いました。

(事務局長 酒井)

ウチらの命、なんぼなん？ 原一男監督の最新作

映画『ニッポン国vs泉南石綿村』が全国約40カ所で劇場公開されています（関西は上映終了）。2018年2月の泉南での先行上映では、地元を中心に1週間で800人余が鑑賞し、海外でも、すでに韓国、台湾、香港、ルーマニア、ニューヨークで上映されました。

この映画は、『ゆきゆきて、神軍』『全身小説家』などで知られるドキュメンタリー映画の鬼才・原一男監督が、泉南アスベスト国賠訴訟の8年半の闘いと100年の被害を追い続けた作品です。深刻な石綿被害だけでなく、原告らの日常や人生にも迫り、被害の裏側に潜む差別などの社会構造、闘いのなかでの様々な葛藤なども描いています。

2017年の山形国際ドキュメンタリー映画祭市民賞、釜山国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞、東京フィルメックス観客賞を受賞し、多数のマスメディアで紹介されるなど、高く評価されています。とりわけ、原監督が、「とんがった人」を主人公にしたこれまでの過激な作品とは違い、初めて「普通の人々」を描いた点で注目されているようです。

各地の上映初日には、「泉南アスベストの会」から原告や支援者が駆けつけ、原監督と一緒にトークショーを行っています。

正直なところ、原監督が世界的にも有名な方だとは、全然知りませんでした。そして、正直なところ、映画が完成するまで「裁判のドキュメンタリー映画なんて、面白いんちゃう？」と疑問でした。



しかし、大変僭越ながら、そこが原監督のスゴイところ！笑いあり、涙ありで、上映時間215分という超長編に尻込みしていた人にも、「長さを感じさせない」と好評です。

正直なところ、「そこ、ちょっと違うんやけど……」と言いたいシーンもあります。けれども、私たちの闘いが、原監督の作品として独自の道を歩み始め、今までアスベスト問題に関心のなかった全国の見ず知らずの人々の心を揺さぶっていることに深い感慨を覚えます。

2014年10月の泉南最高裁判決から早や4年。泉南の原告の姿は、建設や原発、辺野古など理不尽と闘っている多くの方々を励ますことでしょう。願わくば、映画を観た人が、あるいは劇場で原告の声を聞いた人が、現在進行形のアスベスト被害にも目を向け、心を寄せてもらえればと思います。

(副支部長 伊藤)

～ 大阪じん肺アスベスト研究所 開設 ～

昨年海老原先生が急逝されました。それに伴い先生の医学研究の土台となった患者資料を散逸させてはいけないという思いがありました。ご遺族の了承も得て静岡県の西渡診療所の医学資料及び、しばぞの診療所の一部の医学資料を東大阪のわたしのクリニックの二階に移動しました。



【 資 料 室 】

クリニックの二階はそれまでおもに倉庫などの利用のみで有効活用できていなかったのですが、これを機会にと職員の休憩所と会議室および新規の訪問看護ステーションを立ち上げて2室を研究室と資料の保管室にしました。

20坪ほどのフロアをパーテーションで区切っているので広い部屋ではありませんが当面事足るスペースにはなったと思っています。



【 研 究 室 内 部 】

海老原先生は西渡診療所での50年にわたる診療により久根鉦山の塵肺患者さんと向き合い膨大な診療データを残しました。

具体的には膨大な枚数のレントゲン写真と

病理標本、これは亡くなった患者さんの肺の解剖によって得られる顕微鏡検査です。そしてカルテなのですが、カルテは多くがすでに処分されていて現存する分は相当少ないものと思います。



【 入 り 口 】

できれば先生がお元気なうちにデータの説明を詳しく聞いて資料として残しておくべきでした。

あまりにも突然の訃報であったためそれもかなわず、できる範囲での資料整理ではありますがまだまだ研究すべき内容も多いと思われ今後の私のライフワークにしたいと思っています。

資料を大阪に運ぶために静岡の浜松佐藤町診療所の仲間やリサーチセンター関西支部およびしばぞの診療所の仲間やリサーチセンターの理事の方そして海老原家のご遺族に多大なご協力をいただきました。ここに謹んで感謝します。しばぞの診療所に保存されていた20数例の肺の臓器標本（ホルマリン処理されていたもの）は大阪のはびきの医療センターの病理検査室の協力を得て病理的な評価分析をすすめています。データがまとまればまた公表したいと思っています。

資料の整理とカルテからの臨床データとレントゲンおよび病理標本データをつきあわせることにより海老原先生が残してくれた課題を少しでも解決できるよう努力したいと思います。

現在みずしま内科クリニックに通院する多くの患者さんのデータも集積していて研究所が情報発信および若い研究者の研究テーマになってこの分野の医学的なディスカッションが活発になることを期待しています。

(支部長 水嶋)

《事務局だより》

【活動日誌 2018年2月～6月】

- ・1月30日、5月29日 定例会議
関西支部総会の打ち合わせ、労災事例報告他
- ・6月17日 本部総会・じん肺・アスベストシンポジウム



『石綿肺の鑑別診断』

埼玉循環器センター 河端 美則 医師

石綿肺となっている。日本の大部分の塵肺専門医は呼吸細気管枝中心性線維化の存在を石綿肺の前提としている。しかし、石綿肺は胸膜直下肺から始まる。また、呼吸細気管枝中心性線維化の存在は、病理診断は不要だと考える。

石綿暴露は肺線維症を増加させのではないかという視点で、調べてみた結果、石綿曝露者（プラーク、中皮腫や石綿小体有）と非石綿曝露者を比較すると、曝露者では31%、非曝露者では14%と明らかに差があることがわかった。プラークがある人の方が、肺線維症になりやすいという結果になった。

まとめとして、職業性曝露がり、組織切片で2本/1cm²以上の石綿小体があれば石綿肺と言って良い。また、石綿曝露歴の有無を問わず環境曝露以上で基準以下の石綿小体の場合、石綿肺と現状ではいえない。そこが、将来の課題ではないか。

(事務局 篠木)

【第9回 関西支部総会について】

日時：7月28日(土) 14時30分～
会場：ニューオーサカホテル(新大阪)

第一部

記念講演 『いのちの証言・二硫化炭素中毒』
京都保健会・吉中丈志理事長

第二部

総会 議案提案、討論、活動報告など

第三部

懇親会

※ 全体で50～100人。各組合・団体、5～10人の参加をお願いします。